神戸で第４回「世界平和 祈りの幕開け」

諸宗教・宗派代表が平和の祈り捧げる

神戸平和研究所

新型コロナウイルス感染症の蔓延で世界が苦しみ混迷を深める中、感染防止対策を万全に「第４回世界平和　祈りの幕開け」が神戸市の神戸ポートピアホテルで開催された。主催はＮＰＯ法人神戸平和研究所（杣浩二理事長）で約２４０人が参加。午前11時に開幕し、仏教、大本、神道、天理教、イスラム教、キリスト教の代表による平和の祈りと参加者の黙祷が行われた。

天理教代表による「おつとめ」＝11月11日、神戸ポートピアホテル

「世界平和　祈りの幕開け」は、異なる民族、宗教、文化の垣根を越えて諸宗教・宗派が連携し、「神戸から世界平和の草の根運動の輪を広げて行こう」との趣旨で毎年、開催されている。

会場に用意された世界平和を象徴する日本家道山川流の生け花に最後の一輪をさした杣理事長は、次のように開会の挨拶。「日本の国の成り立ちを聖書から解明する作業がほぼ完了し、２８００年前から預言された国だったことが明らかになった。当研究所の三宗司郎所長（イスラエル名誉領事）はユダヤ人も納得する内容だという。正式には論文にして来年発表したい。先日、ルクソールの遺跡の天井画を見て、日本とのかかわりを確信した。各宗教の代表とともに研究を進め、心を一つに対立から協調へと平和活動のモデルを示していきたい」

続いて、壇上の各宗教代表が、それぞれの形式で「世界平和への祈り」を披露した。独特の所作や祝詞、シンプルなメッセージと祈りを捧げる形は異なっても、平和を願う心は同じで、参加者は興味深く見入り、最後に全員で黙とうを捧げた。

次に、来賓の世界連邦日本国会委員会第14代会長で元衆議院議員の中野寛成同委員会会長代行が記念講演した。国家公安委員会委員長、拉致問題担当大臣など務めた中野氏は長崎市の潜伏キリシタンの家の生まれで、４歳の時に被爆している。以下、講演概要。

本日は、１９１８年11月11日第一次世界大戦が終結した「世界平和記念日」で、ヨーロッパ各国では戦没者慰霊などの行事が行われている。第一次世界大戦後に創設された国際連盟の事務次長は新渡戸稲造で、彼の英語の著書『武士道』は発明王エジソンも愛読していた。

世界連邦は全ての国を統合した世界連邦の成立を目指す超党派、超宗教の平和運動。第二次世界大戦末期に成立した国際連合が戦争抑止力の低いことを痛感した世界の科学者・文化人たちが、戦争をなくすことを決意し1946年に始めた。提案したのは米国の原爆開発にかかわった物理学者アルベルト・アインシュタインで、バートランド・ラッセル、アルベルト・シュヴァイツァー、ウィンストン・チャーチル、湯川秀樹などのノーベル賞受賞者が賛同した。

中野寛成氏

杣浩二理事長

世界連邦は世界政府を模索し、連邦議会が定めた法の下、世界各国が平等となり、各国は警察だけを保持し軍は保持しないという理想世界を目指している。貧富の格差を是正するため国際連帯税、国際刑事裁判所の創設などを提案している。

日本では終戦・被爆60周年の２００５年、衆議院本会議で可決された決議に「世界連邦実現の道の探求」とあることから、外務省に世界連邦運動の窓口が設置され、14年までに２３４の自治体が世界連邦賛同を宣言している。

講演に対し「世界平和祈りの幕開け」の参加者たちは共感の拍手を送った。

続いて「アガペワールド」の恵子・ホームズ代表の講演、仏教ポップバンド沙門の演奏があり、同研究所顧問の加藤隆久生田神社名誉宮司の発声で乾杯、昼食会となり、参加者全員で記念撮影し、閉幕した。

灯

「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。

ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。主の日は盗人のようにやって来ます。

しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい。」（ペトロの手紙二３・８―10、13―14）

キリスト教の暦は待降節（アドベント）に入った。一年の終わりは、今年を振り返り新しい年を迎える準備の季節。この時、既に起こった救い主の誕生の出来事を記念する祭りの準備をなし、イエスが約束された来るべき再臨の一日を待望しながら、新たな備えをする時を過ごす。来年が善き年となることを祈り、すべてのものの創り主への信頼を深める季節でもある。（１）

天地

先月号の行基のから風呂の続編。体が軽くなるので週２～４回は通うようになった。石室に入るので、防空壕のようだと言う人がいたが、天地子の実感は古墳。地方の豪族の長は、こんな部屋に身を横たえていたのかと思う▼５分ほどいて、石からの輻射熱で体の芯から温まり、汗が出ると、外に出て、昔、渋沢栄一の孫に教わった真向法を再開した。腰から出ている筋を、順番に延ばしていくのである。50代までは続けていたが、その後、中断していた。３日ほどで元に返り、やや自信回復▼体の柔らかさは頭の柔らかさだと思うので、妻も誘ったのだが、素知らぬ顔。新婚から子育て時代までは互いの生き方の違いが表面化しなかったのだが、制約がほぼなくなった高齢期に頭を出し、老い先に不安を投げかけている。介護される側になるものかと思う▼温泉が少ない瀬戸内には、かつて50ほどから風呂があったが、今や営業しているのは、さぬき市長尾町のここだけ。赤字続きで市が閉めたのを、地元の有志が借り受け、運営している。石室の耐用は30年ほどだが、市に再建の予算はないという。頑張って支えないといけない▼先日、農道の舗装工事が始まり、数人で草刈りをした。こうして業者との共同作業にすると、農水省の補助金が全額出るという。おかしな点もあるが、地域の環境を守る予算の使い方としては、ベターだろう。毎年100万円ほどだが、この先５年で農道や水路を改修していく。仲間が喜んで参加してくれるのがうれしい。

社説

『太平記』の力

熊本県天草市の天草コレジヨ館にはコレジオ（神学校）の備品、天正少年使節団が持ち帰ったグーテンベルク印刷機の複製や南蛮船模型、西洋古楽器など南蛮文化の資料が多数展示されている。同印刷機で印刷された「天草本」は日本初の活版印刷で、目を引かれたのは『平家物語』と『太平記』である。イエズス会はなぜそんな本を出版したのか。

いずれもダイジェスト版で、コレジオやセミナリオでの教育に使われていた。つまり、無垢な少年たちに日本とは何かを、両書を使い教えていたのである。というのは当時、両書が支配層の知識人に普及し、身につけるべき教養とされていたからである。

戦前を代表する東洋学者の内藤湖南が「今日の日本を知るには、古代を研究する必要はほとんどなく、応仁の乱以後の歴史を知っていればそれでいい。それ以前は外国の歴史と同じくらいにしか感じられないが、応仁の乱以後は、我々の骨肉に直接触れた歴史である」と言ったのはよく知られている。応仁の乱は１４６７年から10年、『太平記』はその１００年前、後醍醐天皇による建武の新政から五十余年にわたり南北朝、公武の抗争を描いている。

中世の日本社会は、権威に加え政治的、経済的な力のある公家権門（執政）、宗教権門（護持）、武家権門（守護）から成る権門体制としたのは歴史学者の黒田俊雄で、織田信長の比叡山焼き討ちは宗教権門に挑戦したもの。リアリズムを旨とする武家が主導権を握るのは、徳川家康の宗教政策と禁中並公家諸法度の制定からである。江戸２７０年の平和と充実が明治の礎になったことは異論がない。鈴木正三や石田梅岩などにより、日本的資本主義の倫理も根づいた。

日本の仏教史を学んで思うのは、大衆に受容されてこそ宗教も発展すること。優れた宗祖がいたにもかかわらず、その不足で消え去った教えも数多いに違いない。その意味で、『平家物語』と『太平記』が広く語り継がれ、読み継がれたのは注目に値する。『太平記』を読むと、『平家物語』の知識がないと理解できないくだりもあり、半ば常識化していたのである。当時の人々は、両書を通して国とは、日本とは何かを学び、議論し、それぞれの統治や業務に反映させたのである。つまり、日本の骨格がつくられた。

世界に通じる「祈り」発信を

やがて幕末になると、『太平記』の記憶が国学の勃興に一役買い、この国が天皇の国だったことを想起させ、時代の流れを討幕・維新へと向かわせる。中世からの蓄積が明治の近代国民国家形成を成功させたと言えよう。世界の発展途上国で、欧米先進国をモデルにした近代国家づくりに成功した例は稀である。

ここで近隣両国に触れるのは本意でないが、両国民に共通しているのは国家・政府に対する信頼の低さで、頼れるのは血縁だけであることからいわゆる種族主義に、政権は権威主義になりがちだ。その近現代史に、日本の対外政策が関与しているので控えめになるが、国の歴史は国民が書かなければならず、同じ出来事でも、被害と書くか、試練と書くかで、その意味は大きく異なってくる。日本人にとって幸いだったのは、父祖たちが「この国のために死んでもいい」という国をつくってくれたことである。

通じ合う心

コロナ禍で辛いのは、助け合いたい人たちとも距離をとらないといけないことである。しかし、リモートでの交流を重ねながら、真意を通わせるのに、必ずしも実体は必要ないと思うようになった。もっと大事なのは言葉、文章であり、その背後にある思い、さらに祈りである。

全国の社寺では鎮めの祈願祭などが営まれているが、一人ひとりの思いにもそれがある。その意味で今は、祈りの力が試されている時なのではないか。深い祈りにより、私たちは時空を超え、多くの人たちと心を共有することができる。本来、人や万物はそのようにつくられていたのではないかとさえ感じられる。心の深みで互いに通じ合う、同じ宇宙に住んでいるのである。

神道を基礎に発展した日本仏教が山川草木悉皆成仏を世界に発信したように、今の日本には世界に通じる祈りを発信する役割があるように思えてならない。

日本仏教教育学会第29回学術大会

仏教の価値観で家庭再建

駒澤大学

11月21日、東京都世田谷区の駒澤大学内・日本仏教教育学会事務局（熊本英人研究室）を発信先に日本仏教教育学会第29回学術大会がオンラインで開催された。

塩入法道会長（大正大学教授）は挨拶で「授業や学会などもオンラインになり、教育環境が大きく変わった。新しい生活様式と仏教教育も考えないといけない」と述べた。

東京大学大学院生の成田龍一朗氏は「グスタフ・ランダウアーの神秘思想における仏教と『教育』可能性」を発表。ドイツで神秘的アナーキズムを展開したランダウアーが仏教から影響を受け、芸術が「教育」の手掛かりとされたことに注目した。

「仏陀によって精神的な個人は否定されたとしたランダウアーは、『仏陀は、外の世界の独立した創造者など存在しないとし、独立した個人の魂もばかげたことだとしている。輪廻の教えには、すべての存在の間に不可分のつながりがあり、別のものや力に姿容するという真理の核心が潜んでいる』とも述べた。ランダウアーは『われわれは芸術のなかで世界を獲得し、創造し、我を忘れる』とし、芸術を通した教育を考えた」

続いて、前千葉県立柏南高等学校教諭の鈴木一男氏が「実存主義を乗り越えて―ブッダと私―」を発表し、人間の「本来的在り方」を求めるには、実存主義だけではなく宗教・宗教思想により生き方が説かれるべきだとし、仏教は他の思想より高い次元に立ち、すべての思想を含むと述べた。

東京基督教大学大学院神学研究科教授の岡村直樹氏は徐有珍助教授（東京基督教大学神学部）との共同研究「コロナ禍の宗教教育と信仰心の涵養に関する混合研究」を発表した。

発言する塩入法道会長＝11月21日

「20年来、実父母による家庭内虐待が急増し、家庭崩壊と世間消失が進行している。親が無宗教で不道徳であれば家庭は無法地帯になりかねない。明治初めに日本各地を旅したイザベラ・バードは『日本奥地紀行』で、『これほど自分の子どもをかわいがる人々を見たことがない。…他人の子どもに対しても、適度に愛情をもって世話をしてやる』と述べ、ルース・ベネディクトは『菊と刀』で、日本人の『幼児期の特権と気楽さ』を、仏種を信じる法華信仰から分析している。心理人類学の浜口惠俊は、『日本らしさ』の再発見』で、西洋近代の『個人』が独立した行動主体としての『社会的原子』であるのに対して、日本人は家族や世間などの『間柄』における主体システムとしての『間人』で『社会的分子』だとし、龍樹の『縁起論』に立脚して、キリスト教的な『方法論的個体主義』から仏教的な『方法論的関係主義』への転換を図った。女人往生を説く勝鬘経の『大悲をもって衆生を安慰し哀愍して、世の法母と為る』精神が、母性原理に立脚する日本的霊性の在り処を指示する。日本仏教の在り方を見直すべきだ」

本紙定期購読のお申し込みは

■ご希望購読期間　■氏名　■郵便番号　■住所　■連絡先電話番号　■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、ＦＡＸまたはＥメールで左記へお申し込みください。

〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4Ｆ
電話　０３（３３５３）２９４０
ＦＡＸ０３（５３６３）５１８２
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料　年間６０００円（税、郵送料を含む）

宗教新聞社

宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net

©宗教新聞社 2020

購読料（税込）
１部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話:03-6265-0852　FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著　四六判・520頁　定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305　FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製　232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社　販売企画部
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み　FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著　（定価：本体２０００円＋税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344　Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格５００円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のＪＲ中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋靈 著　四六判・158頁　定価1、365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いＪＲ中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市淵野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558　FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著　A五判　五八〇頁　本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編　B六判　二九〇頁　本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著　四六判296頁（本体１５００円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール１Ｆ
TEL 03-6657-9000　Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com